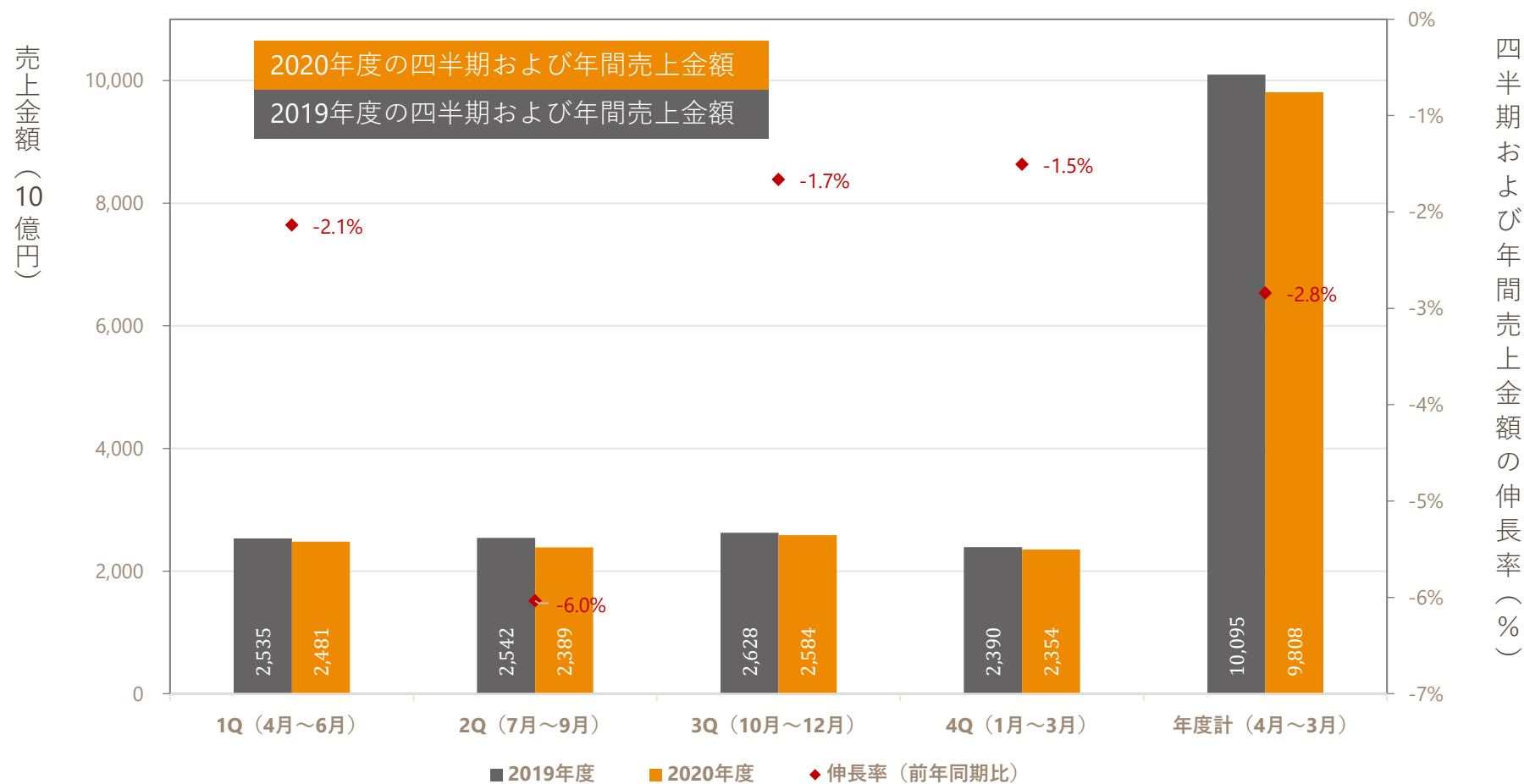


エンサイス スナップショットデータ (薬価基準ベース)

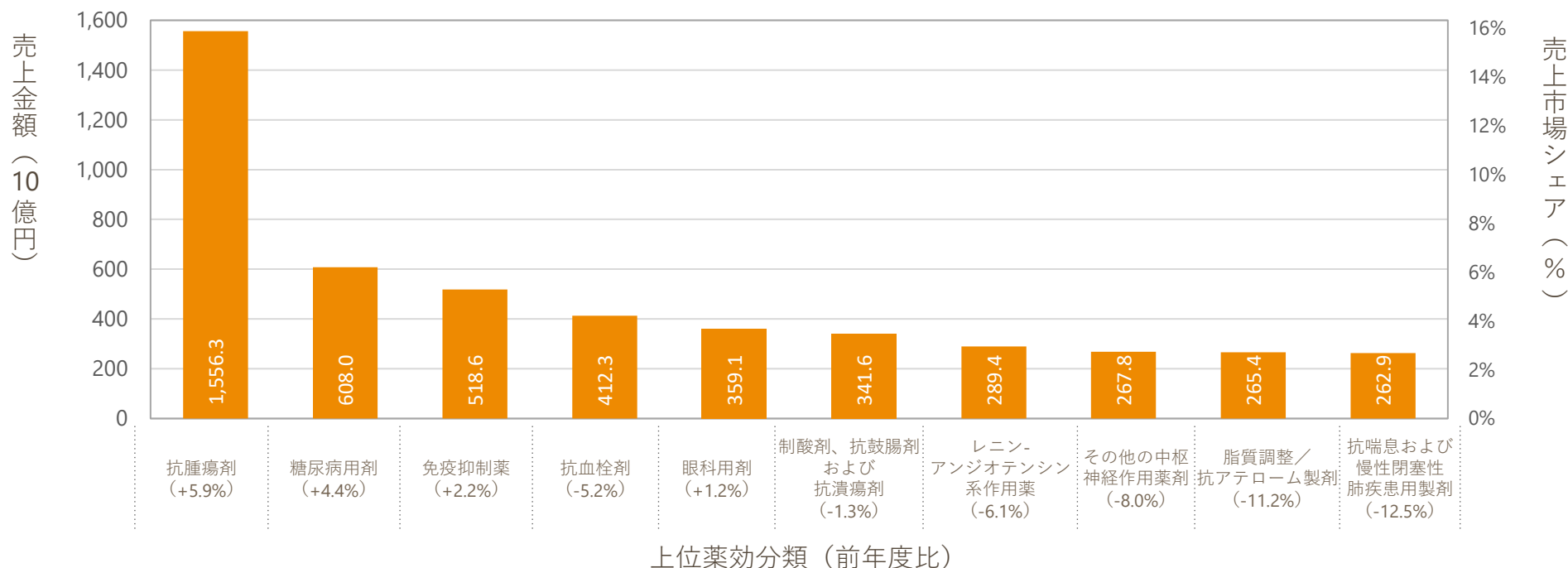
2020年度 (2020年4月～2021年3月)

本レポートは、エンサイスが収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、エンサイスは本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

2020年度医療用医薬品市場（四半期別実績及び年間合計）

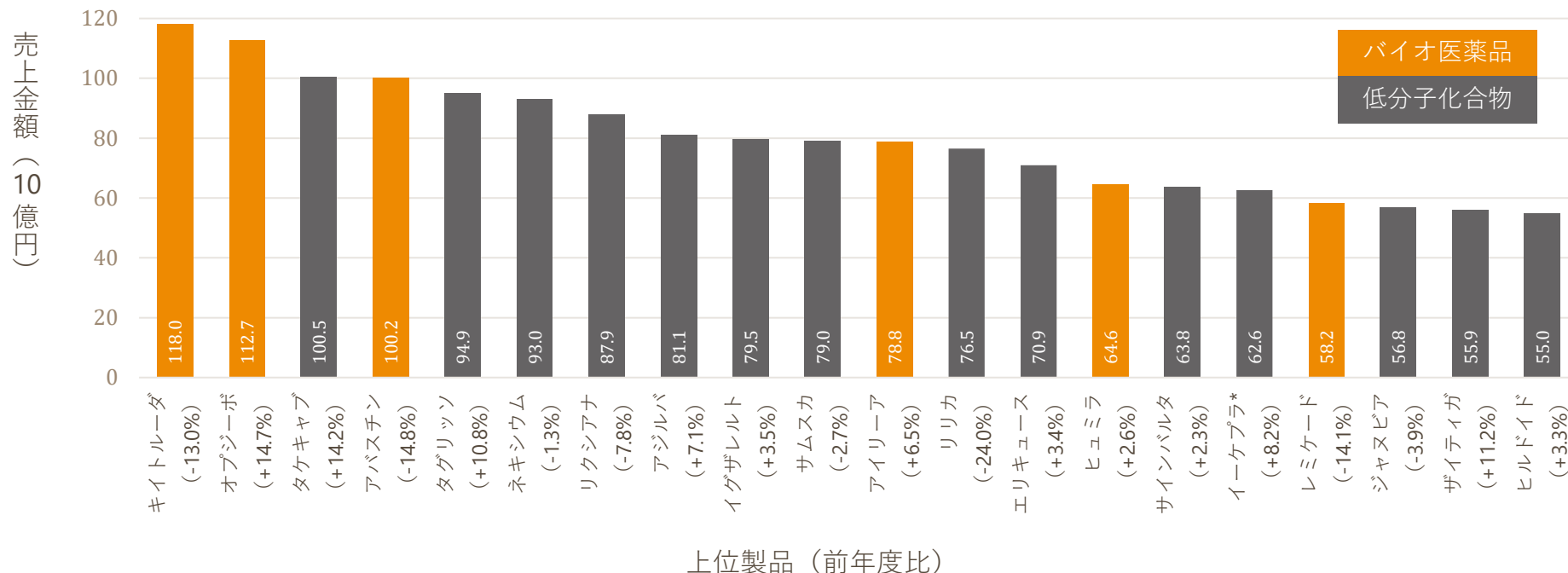


医療用医薬品売上上位10薬効分類



- 上位10薬効分類の総売上高は4兆8,814億円（前年度比0.3%減）、医療用医薬品総売上高の49.8%を占めている。
- 抗腫瘍剤は、医療用医薬品市場全体の15.9%を占め、成長し続けている（前年度比5.9%増）。抗腫瘍剤市場の成長に寄与した主な製品として、テセントリク（売上高530億円、前年度比80.5%増）、オプジーボ（売上高1,127億円、前年度比14.7%増）、オフエブ（売上高424億円、前年度比37.8%増）が挙げられる。
- 抗腫瘍剤における、プロテインキナーゼ阻害薬とモノクローナル抗体を合わせた市場占有率は74.1%、前年度比7.4%増の成長がみられた。一方、代謝拮抗剤、プラチナ製剤、アルキル化剤、および抗腫瘍性抗生物質はマイナス成長となり、総売上高は前年度比5.2%減の1,578億円であった。モノクローナル抗体である免疫チェックポイント阻害薬の売上高は、前年度比10.4%増の3,310億円であった。
- 糖尿病用剤は、売上高および前年度比において抗腫瘍剤に次いで成長がみられた領域であり、売上高は前年度比4.4%増の6,080億円であった。この成長は、主にSGLT-2阻害剤（売上高1,579億円、前年度比22.0%増）およびGLP-1作動薬（売上高569億円、前年度比19.9%増）が牽引している。DPP-IV阻害剤は、糖尿病用剤における市場シェアを42.0%とし、最大占有率を維持しているが、売上高は前年度比2.5%減の2,553億円であった。

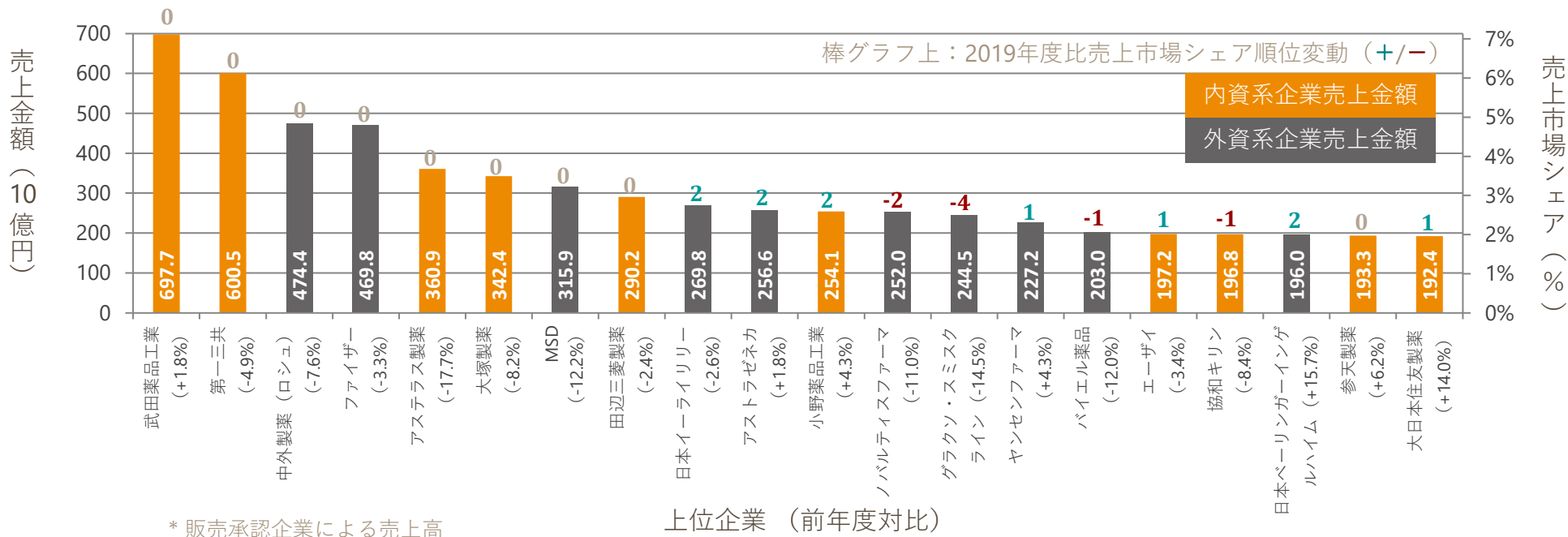
医療用医薬品売上上位20製品



* 同ブランドによる合計売上金額（局所用剤を含む）

- 上位20製品の2020年度の総売上高は1兆5,900億円、医療用医薬品総売上高の16.2%を占めている。
- 上位20製品の2020年度の総売上高は2019年度と比較して3.3%減少した。これは、リリカ（前年度比24.0%減）、キイトルーダ（前年度比13.0%減）、アバスチン（前年度比14.8%減）、およびレミケード（前年度比14.1%減）の売上高が減少したことが主因と考えられる。一方、オプジーボ（前年度比14.7%増）、タケキャブ（前年度比14.2%増）、およびタグリッソ（前年度比10.8%増）などの売上高には増加がみられた。
- バイオ医薬品の売上高は、上位20製品の総売上高の33.5%を占めている。2019年度と比較して0.3パーセントポイント（pp）減少しており、要因としては、キイトルーダ、アバスチン、レミケードといった主要なバイオ医薬品の売上高が減少したことが考えられる。
- 2020年度上位20製品に新たに加わった製品：イーケプラ（第16位、前年度比8.2%増）、ザイティガ（第19位、前年度比11.2%増）、ヒルドイド（第20位、前年度比3.3%増）
- 2020年度上位20製品から外れた製品：エディロール（前年度比37.0%減）、マヴィレット（前年度比21.8%減）、ゼチーア（前年度比58.2%減）

医療用医薬品売上上位20社*



- 上位20社の2020年度の総売上高は6兆2,350億円（前年度比4.7%減）、医療用医薬品総売上高の63.6%（前年度比1.2 pp減）を占めている。
- 上位20社における内資系企業の売上高と外資系企業の売上高比率は、約53対47と2019年度と同じであった。上位20社における内資系企業の総売上高は3兆3,256億円（前年度比4.1%減）、外資系企業の総売上高は2兆9,093億円（前年度比5.4%減）であった。
- 上位20社のうち上位8社の順位は変更がなかった。上位20社中7社はプラス成長、13社はマイナス成長であった。
- 大日本住友製薬が2020年度上位20社に新たに加わった。これは、2019年度にノバルティスファーマから販売権が移管されたエクメットおよびエクアの寄与によると考えられ、両剤の総売上高は476億円であった。一方、日医工は、売上高を前年度比7.5%減の1,827億円とし、上位20社から外れた。
- 日本イーライリリー、アストラゼネカ、小野薬品工業、および日本ベーリンガーインゲルハイムは、それぞれ2ランク順位を上げた。一方、グラクソ・スミスクラインは4ランク順位を下げたが、主因として、2020年度に後発医薬品参入の影響を受けたアボルブ（売上高140億円、前年度比57.6%減）およびザイガル（売上高136億円、前年度比57.0%減）の売上高減少が考えられる。